

## ベラルーシ公開情報とりまとめ

(12月5日～12月11日)

2022年12月28日

在ベラルーシ大使館

### 【主な出来事】

- アムブラゼヴィチ外務次官が国連総会に出席(12月6日～9日、於ニューヨーク)
- 欧州委員会がベラルーシの民主化に向け2,500万ユーロ相当の拠出を決定(12月7日)
- ルカシェンコ大統領がユーラシア経済同盟(EAEU)首脳会合に出席(12月9日、於ビシュケク)
- 恩赦に関する法律が施行、政治犯は対象外(12月10日)

### 【ルカシェンコ大統領動静】

#### ●ピネヴィチ保健大臣との会談

(1)出席者、議題等

・コチャノヴァ共和国院(上院)議長、ペトリシェンコ副首相らも同席。

・医療保健システム、ベラルーシ製のワクチンや医薬品の生産、人事、病院への設備投資等の現状を協議。

(2)大統領は要旨以下を述べた。

・先週は軍・治安機関幹部と会談した。国家安全保障は大変重要かつ差し迫った事柄であり、医療保健を含めて全てを関連させなければならない。医師と軍医のそれぞれを巻き込み、緊密に交流させなければならない。あらゆることが生じ得るので、あらゆることに備えなければならない。

・中国人民と我が友・習近平に、忘れずに助けてくれていることを感謝。とはいえ、我々はワクチンを生産しており、輸入代替に取り組んでいる。

・国産医薬品のシェア拡大は止まってしまったのか、それとも前進しているか。

・コチャノヴァ共和国院(上院)議長は、病院の設備投資や必要施設の建設等につき、政府が管理するよう取り計らい願う。医療保健においても教育においても、やたらに大きな箱物を建てたりするのを止めなければならない。

(3)ピネヴィチ保健大臣は、大統領との会談後、記者団に要旨以下を述べた。

・ベラルーシの医療は全般的に、機材の供給や修繕で特に問題はない。保健省は医療機材の調達先を西欧諸国から中国等の他の国への切り換えに取り組ん

でいる。ベラルーシでは既に、中国製のハイエンドかつ大型の医療機材が利用されている。

・複数の西欧のメーカーが、「中国・ベラルーシ産業特区『巨石』」(中白工業園区 Great Stone Industrial Park)での現地生産を行っており、いずれ医療機材やそのコンポーネントの供給にかかる問題は最小限になる。

・本年、医療用品やそのコンポーネントにおけるベラルーシ製品のシェアは金額ベースで30%に達しており、医薬品における国産品のシェアは50%以上。

・医薬品の確保は、さしあたって若干の困難があるものの、医薬品が大幅に不足しているということはない。現在、ベラルーシ国内には全ての種類の医薬品に1か月半～1年半の備蓄がある。

(12月5日 国営ベルタ通信、国営ベルタ通信)

#### ●軍・治安関係者に対する住宅確保に関する会合

大統領は要旨以下を述べた。

・軍・治安関係者は、ある意味、医師や教師等と同じく、国家にとって最も重要な役割を果たす国家公務員。

・国家公務員、とりわけベラルーシの防衛に携わっている者らへの住宅確保は現在特に重要であり、今後も常に国家の住宅政策の優先事項であり続ける。何度も述べているとおり、多子世帯や軍・治安関係者は、優先対象の中でも超の付く優先対象だ。

・こうした人々による賃貸物件の買い取り等につき法律レベルで明記するよう指示する。

・軍・治安機関で25年勤め上げた者には、現役を退いた後に国家から住宅を無償で提供するなり、家賃を

3%にする等してはどうか。このように思い切ったことをする必要があると思われる。

(12月6日 大統領府)

## ●フィンランド独立記念日に寄せたフィンランド国民宛祝電

祝電は要旨以下のとおり。

- ・貴国の社会・経済・科学技術等の分野における成功を後押ししてきたのは、貴国が中立と地域における平和的共存を伝統的に遵守してきたこと。
- ・フィンランド当局がこじつけの理由によってこの路線を放棄したことは極めて遺憾。このことはフィンランド国民の生活の質に既に大変な悪影響を及ぼしている。
- ・ベラルーシに対してはありとあらゆるフェイクがあるが、ベラルーシは依然として信頼できるパートナーであり、近隣諸国に対する脅威を作り出したことは決してなく、その歴史を通じて常に安定と紛争のない協力を提供する国である。
- ・ベラルーシは変わらず、フィンランドとの対等な政治的対話、貿易・経済面での連携、学術・人的交流の拡大等の再開に関心あり。

(12月6日 大統領府)

## ●ユーラシア経済同盟(EAEU)首脳会合(於ビシュケク)

(1)大統領は首脳会合の席上、要旨以下を述べた。

- ・EAEU 発展のための戦略的課題として必要なのは、①最先端の生産設備を作るための共同プロジェクトを早期に実現させること、②加入国諸国がドル依存を脱却し、自国通貨での貿易にシフトすること、③EAEU 域内市場の障壁を撤廃すること、④EAEU の国際的な信頼性と競争力を高めること。

(2)大統領は会談後の記者会見で要旨以下を述べた。

- ・2014年から2015年のミンスクでの和平合意において、西側は露を、プーチン露大統領を、全世界をだまし、ウクライナ軍がこの度の戦争に準備する機会を与えた。
- ・プーチン露大統領とは常に、和平交渉や早期停戦の重要性等につき話し合っており、ヘルソン、ルハンスク、ドネツク、ザポリージャといった具体的な地名や、

誰が誰を解放するのかなど話題にはしていない。

- ・ベラルーシ向けガス価格が問題なのではない。ベラルーシとロシアが統合の深化に踏み切るのなら、両国企業の活動条件は対等でなければならず、ロシア企業がロシア国内でガスを60ドルや80ドルで調達できているのに、ベラルーシ企業がベラルーシで入手するガスが120ドルなのでは、どこが対等なのだろう。重要なことはロシアでもベラルーシでも対等だということ。プーチン露大統領とは近々会談を行い、安全保障、経済、エネルギー問題等につき協議する予定。
- ・EAEU 加盟国は2025年に、ガス市場を含む共通エネルギー市場に移行することで合意しているはずだが、ロシアだけでなく各国ともそのように急速に動く用意がない。2025年からは統一エネルギー市場が始まるのだから、分裂するのではなく、二国間で問題を解決するよう提案した。ユーラシア経済最高評議会ではこのことで合意した。

- ・国家間の決済で、米ドルが使用できなくなったのは、状況に迫られたやむを得ないこと。ベラルーシはかつて、露へのエネルギー資源の支払いにおいてロシア・ルーブルでの決済を申し出て、米ドルで払うようにと断られたことがあった。現在は、ロシア・ルーブルで決済できており、満足。

(12月9日 大統領府)

## 【外交】

### ●アムブラゼヴィチ外務次官が国連総会に出席(12月6日～9日、於ニューヨーク)

12月6日

- ・ cholノービリ原発事故を巡る国際協力を含む人道支援の提供に関するベラルーシの立場につき発言。盲目的な制裁による影響を被るのは一般の人々であり、復興に向けた国際的な技術支援の機会が著しく減少していることを強調。
- ・核兵器不拡散条約(NPT)関連会合に出席。NPTは国際的な安全保障体系全般にとって肝要であること、勝者と敗者を区別せず関係する者全ての利益を考慮する姿勢が重要である旨強調。
- ・クールシ国連総会議長と会談。ウクライナにおける武力紛争を踏まえた地域及び世界的な安全保障につ

き協議。特定の国による一方的な制裁という状況下での、持続可能な開発のための 2030 アジェンダの達成につき特に協議。

12 月 7 日

・ベラルーシとフィリピンが共同で、人身取引対策に関する円卓会議を開催。

・ヒュルフホフ国連児童基金 (UNICEF) 事務次長と会談。ベラルーシと UNICEF の協力の現状と今後の見通しにつき協議。西側の経済制裁の影響評価を UNICEF に呼びかけ。

・ヴォロンコフ国連事務次長 (テロ対策オフィス (UNOCT) 担当) と会談。テロ対策分野におけるベラルーシと UNOCT の協力にかかる当面の問題、テロ関連の国際的な課題と挑戦につき協議。

12 月 8 日

・ピーターセン国連人口基金 (UNFPA) 事務局次長と会談。2021 年～2025 年の国別プログラム等、ベラルーシと UNFPA の協力につき協議。

・非同盟運動諸国及び国連憲章を守る有志国グループの代表に対し、制裁の不当性を訴えるブリーフィングを実施。

・集団安全保障条約機構 (CSTO) 加盟各国の国連常駐代表と会談。

12 月 9 日

・グテーレス国連事務総長と会談。国際的な安全保障、地域の安全保障、一方的な制裁による世界的な食糧安全保障に対する好ましくない影響等につき協議。また、ベラルーシは自国領を経由してリトアニアの港湾からウクライナの穀物の積み出しに賛成する旨表明。アムブラゼヴィチ次官は、ベラルーシが現在は制裁対象となっている自国産カリ肥料の積み出し許可の取得に取り組んでいることに特に言及。

・ディカルロ国連事務次長 (政治・平和構築担当) と会談。国際関係において特定の国を排除したり制限を課したりすることは許されない旨強調。

(12 月 7 日～12 日 外務省、9 日 国連、10 日「ゼルカロ (鏡)」)

## ●欧州委員会がベラルーシの民主化に向け 2,500 万ユーロ相当の拠出を決定

・欧州委員会は、ベラルーシの民主化への願望を支援することを目的として、新たに 2,500 万ユーロ相当の支援プログラム「EU4Belarus: Supporting societal resilience and human capital development」を採択。

・支援の狙いは、民主化や人権保障の促進に取り組む社会活動家の支援、学生や専門家に対し近代的かつ質の高い教育、学習の機会の付与等。

・同支援プログラムの採択により、2022 年のベラルーシ国民に対する支援総額は 3,000 万ユーロ超となる。

・2020 年の大統領選挙以降、EU はベラルーシ国民に対し、抑圧の犠牲者、市民社会、独立系メディア、若者への奨学金、中小企業、健康、文化への直接支援等、1 億ユーロ超の支援を行ってきた。

(12 月 7 日 欧州委員会、「ゼルカロ (鏡)」)

## 【内政】

### ●私立学校を巡る状況

・12 月 3 日、イヴァネツ教育大臣は国営 TV「ベラルーシ第 1 チャンネル」の番組において、私立の教育機関も教育活動を行うための免許を取得可能であること、そのための要求事項を年内に満たす必要があること、一部の学校は免許申請のための文書を提出しており、これから検討されること等を述べた。

・9 月 16 日、私立学校「スマートスクール」の生徒が同級生の顔を空気銃で撃つという事件が発生。これを受けルカシェンコ大統領は、私立の教育機関全てに対する検査を指示。後日、同校の複数の幹部が刑事告訴され、拘束される。

・10 月 3 日、ボリセンコ・ミンスク市執行委員会 (市政府) 教育委員会第一副委員長は国営 TV「ベラルーシ第 1 チャンネル」の番組において、9 月 1 日以降にミンスク市内で活動中の私立教育機関のうち、教育活動を行うための然るべき登録がなされているのは 6 機関のみである旨発言。

・10 月 18 日、検察は 14 の私立教育機関に警告を発し、1 機関を閉鎖した旨発表。同日、教育省は、私立学校の生徒の 9 割以上が既に国立の教育機関に転校した旨発表。

・一方、2020 年に開校した「ミンスク国際ギムナジウム」は、大統領の三男ニコライ・ルカシェンコ氏の生母とされるイリナ・アベリスカヤ氏と関係があるが、同校には特に問題が生じていない。報道によればニコライ氏は同校で学んでいたとされる。

(12 月 6 日 「ゼルカロ(鏡)」)

### ●恩赦に関する法律の施行

・刑務所で服役中の受刑者 1,600 人を含む約 4,545 人の被告が釈放され、3,950 人の被告の刑期が 1 年短縮される。

・いわゆる「過激主義」「テロリスト」とされた人物は対象外。

(12 月 8 日、10 日 法律ポータル、BPN、「ゼルカロ(鏡)」)

### ●反体制派の弁護に立っていた弁護士の資格剥奪

・ヴラジミール・プイリチェンコ弁護士は、マリア・コレスコニヴァ氏(ババリコ元大統領候補選挙対策本部長)及びエドゥアルド・ババリコ氏(ババリコ元大統領候補の子息)の弁護を担当していた。

・ヴィクトル・マツケヴィチ弁護士は、セルゲイ・チハノフスキー氏(チハノフスカヤ民主勢力代表の夫)の弁護を担当していた。

(12 月 9 日 ババリコ陣営 Telegram、チハノフスカヤ氏公式 Telegram、「ゼルカロ(鏡)」)

### ●12 月 11 日現在の政治犯の数は 1,438 人

(12 月 11 日 人権団体「ヴァスナ(春)」)

### 【治安・軍事】

#### ●露モスクワ州セリャチノからプレスト州バラノヴィチ近郊へ軍用車両が移動

・油槽車 15 台以上、トラック 8 台、BTR-80A 装輪装甲車、貨車 3 両から成る列車。

(12 月 9 日 「Live ベラルーシ鉄道員協会」、「ゼルカロ(鏡)」)

### ●国家安全保障会議による、テロ行為に対処する国家システムの点検の実施(12 月 7 日、8 日)

(12 月 7 日 国営ベルタ通信)

### ●フレニン国防大臣が独立国家共同体(CIS)・上海協力機構(SCO)加盟国国防大臣会合に出席(於モスクワ)

(12 月 9 日 国防省)

### ●リトアニア税関はベラルーシからの密輸たばこ 100 万ユーロ相当を摘発

・リトアニア経由で露カリーニングラード州へ向かっていたプロパンガスのタンクローリーから、国営「グロドノたばこ工場『ニョーマン』」製のたばこ 28 万 6,000 箱(100 万ユーロ相当)以上が発見された。

(12 月 9 日 「ゼルカロ(鏡)」)

### ●ベラルーシから欧州への不法越境の試み

(12 月 5 日～12 月 11 日)

・リトアニア国境警備局は少なくとも 132 人を阻止。

・ラトビア国境警備隊は少なくとも 116 人を阻止。

・ポーランド国境警備隊は少なくとも 452 人を阻止。

(12 月 6 日～12 月 12 日 BPN)

### 【経済】

#### ●制裁対象となっている企業の至近に同一の業務を行う企業が登場

・11 月 22 日、ミンスク州リュバニ地区執行委員会(地区政府)は、株式会社「ネドラ・ネジン」を登録。同社は肥料生産のための鉱物資源採掘を行う。

・同社の業務は、同地区で操業する「スラヴカリ」と同一で、登録されている住所は「スラヴカリ」の至近。「スラヴカリ」と関係の深いロシアの実業家ミハイル・グツェリエフ氏は、2021 年 12 月 4 日に欧州連合(EU)の制裁対象となっている。「スラヴカリ」が操業する鉱区には、中国国営「中国エネルギー建設(中国能源建設 China State Energy Engineering Corporation)」が選鉱施設を建設。

・12 月 5 日、「法律ポータル」(我が国でいうインターネット官報に相当)で同日付閣僚会議(政府)決定第 834

号が公開。同社に対する国家からの代表者として、シュヴァユノフ建築・建設次官、キイコ第一財務次官、チェボタリ第一経済次官、ブロフキン国家資産委員会第一副委員長が任命されている。

(12月6日「ゼルカロ(鏡)」)

### ●国立銀行(中央銀行)が通貨バスケットからユーロを除外

・12月12日以降の内訳は以下のとおり

ロシア・ルーブル (RUB) 60%

米ドル (USD) 30%

人民元 (CNY) 10%

・変更の理由は、ロシアや中国との貿易の割合が高まり、RUBでの決済が増加した一方、ユーロでの決済が減少したため。

(12月8日 国立銀行(中央銀行))

### ●財務省がロシア・ルーブル(RUB)建ての国内向け国債を起債

・額面はRUB1,000で、総額RUB50億。

・12月8日から29日にかけて、ベラルーシ証券取引所で販売。環境負荷低減に関する国家プロジェクトへの出資が目的。

・年利は12.5%、満期日は2025年12月12日。

(12月8日 財務省)

### ●日産の新車納入の停止

・11月23日、日産自動車はロシアとベラルーシでの活動停止とロシア企業への事業譲渡を発表。

・12月8日、ベラルーシにおける日産の正規ディーラーである「Drive Motors」は、現在あるテラノとキャシユカイの在庫を売り切り次第、新車の販売が終了すること、販売済みの日産車に対するサービスは継続することを発表。

(12月8日「ゼルカロ(鏡)」)

### ●トルコの携帯電話事業者「Turkcell」がベラルーシの携帯電話事業者「life :)」の全株式を取得

(12月11日 Office Life、「ゼルカロ(鏡)」)

### 【抗議勢力の動き】

#### ●チハノフスカヤ民主勢力代表の欧州各国歴訪

(1)スウェーデン訪問(12月5日、6日)

・クリステション首相の招待によるもの。

・ビルストロム外務大臣、フォルセル国際開発区協力・外国貿易大臣、ノーレン国会議長らと会談。

(2)ポーランド訪問(12月8日)

・ワレサ元大統領、ドゥダ大統領と会談。

(3)ノルウェー訪問(12月10日、11日)

・ノーベル委員会の招待によるもの。

・ヴィットフェルト外務大臣、ガラハニ議会議長と会談。

・ノーベル賞授賞式及び晩餐会に出席。

(12月5日～11日 チハノフスカヤ氏 Twitter)

#### ●「カリフノフスキー連隊」と「サイバーパルチザン」が統合

・「カリフノフスキー連隊」は、ウクライナで戦うベラルーシ人義勇兵の有志による部隊。「サイバーパルチザン」は、ベラルーシの政府機関等へのサイバー攻撃を行っている反体制派。

・カバンチュク「カリフノフスキー連隊」副隊長は、「サイバーパルチザン」との統合と今後の協調行動を発表。

(12月6日「ゼルカロ(鏡)」)

### 【その他】

#### ●国際ジャーナリスト連盟(IFJ)はジャーナリストが投獄されている国上位10か国を発表

|       |     |         |     |
|-------|-----|---------|-----|
| 中国    | 84人 | エジプト    | 23人 |
| ミャンマー | 64人 | ロシア     | 29人 |
| トルコ   | 51人 | サウジアラビア | 11人 |
| イラン   | 34人 | イエメン    | 10人 |
| ベラルーシ | 33人 | シリア     | 9人  |

(12月9日 国際ジャーナリスト連盟、BPN)

#### ●国営企業建設現場での死亡事故

・ゴメリ州レチツァ地区の国営「スヴェトロゴルスク住宅建設コンビナート」の建設現場で、酩酊状態で作業していた下請けの電気溶接工が死亡。

・現場責任者が安全規則違反で刑事訴追され、懲役2年の判決。「スヴェトロゴルスク住宅建材コンビナート」

には、死亡した溶接工の配偶者に対して弔慰金 5,000  
ルーブルの支払い命令。

(12 月 5 日 最高裁判所)

●**ミンスク市ヴァネエフ通りのスタジアム建設現場で  
火災**

・中国の資金援助によって改築中の「トラクター・スタ  
ジアム」の工事現場付近で、海上コンテナが炎上。

・650m<sup>2</sup>が炎上。犠牲者なし。

(12 月 7 日 非常事態省、「ゼルカロ(鏡)」)

(了)